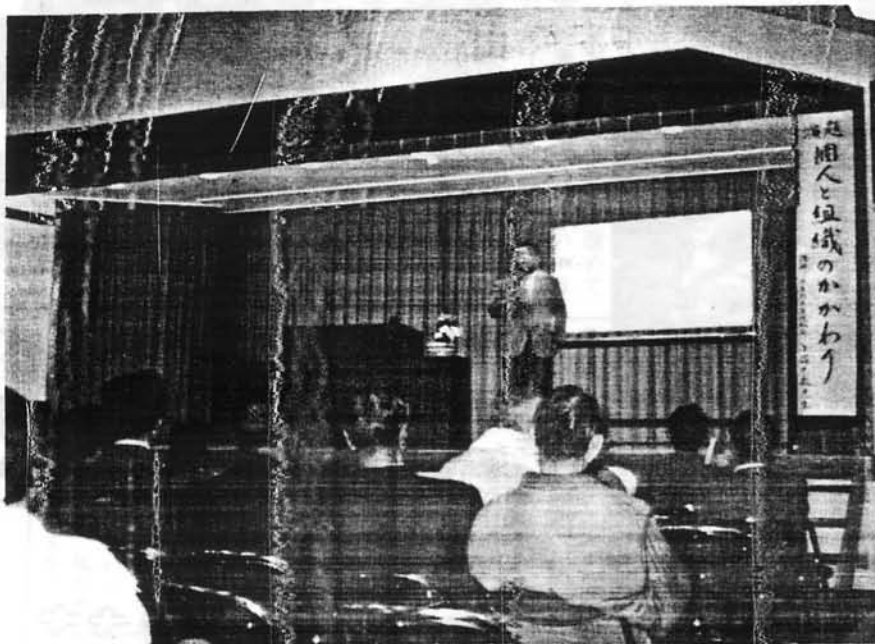


が ん ば

島三小育友会報
発 行 部
広 報 部

【第89号】



「出会いの大切さ」

母のささやえと

恩師の教え

教育講演会に出席して

教養部副部长 入江英香

サッカー界の名監督、小嶺忠敏先生をお迎えし、去る12月3日、白山公民館に於て開催致しました教育講演会には、二百名以上の皆様が御参加下さり、誠にありがとうございました。

「個人と組織のかかわり」という演題で話を進められました。講演会という固苦しい雰囲気ではなく、先生の生い立ちからサッカー

ーとの意外な出会い、大学進学までの心情、そして現在の小嶺監督の姿をお聞きする中で、七人の子育てをされたお母様の心の支えが、いか程に深かったかを感じました。又、「中学・高校・大学を通じて、すばらしい恩師に恵まれたことは、大きな財産だと思う」と出会いの大切さ等についての内容には心をうたれました。

サッカーの個人プレーとチームプレイのつながりが、他の面にも共通する点が多くあり、特に、

練習試合は、ただ単に勝敗の記録にこだわるのではなく、選手一人一人の個性を見抜く目的があるのだ、と教えられました。どしゃぶりの雨の中で、抜群の力を發揮する選手もいるのだそうで、驚きました。サッカーを、私たちそれぞれの、身近な事柄に置き換えて考え直し、個性と特性を見出し、生かしたいものです。

「一つ何か特性があれば万才」の先生の言葉を肝に銘じ、母親として毎日の生活の中で、子供の性格を見きわめ、長所を伸ばしてやる環境を与えることが出来るよう努め、がんばりたいと思います。

最後になりましたが、今回の教育講演会開催にあたり、御苦労、御協力下さいました白山地区健全育成会、島原文化連盟、先生方及び代議員の皆様方に対し、紙面をお借りして感謝申し上げます。



注意、一人行動はダメ

紅葉がかり
 —普賢岳登山—
 紅葉の落葉を踏みしめる
 息がはずむ、汗がにじむ。
 がんばれ、頂上はもうすぐだ。



頂上でホット一息



食べたり、ポーズとったり



ここん空気はきれかネ

2年生の**社会科見学**

えきの見学

二組 満尾 香

わたしは、えきの見学にいった時、たくさんのき車があったのでとつてもびっくりしました。ふるくてさびくったき車や、きれいなき車がおいてありました。さびくったりしているの、わたしは、「きつと雨の日もがんばったんだらうなあ」と思いました。き車をてんけんしている人もいれば、きつぶをくばったりする人が何人も何人もいました。えきではたらく人は、いっしょうけんめ

いしごとをしているんだなあと思いました。

わたしたちのついていたき車は人の子でわすれたこみは、ひとつもありませんでした。とつてもきれいにしてあるんだなあと思つてさびくっていました。えきの人がおそうじしているのでしょうか。「おきやくさんのちんせんをまもつてきをつけてうんでんしているんだなあ」と思いました。

えきの人は、白いてぶくろをきちんとはめていました。それに、きちんとぼうしもかぶっていました。えきの人は、たいへんだなあと思っていました。

えきではたらく人

一組 吉田 智子

この前、わたしたちは、えきけん学に行きました。えきでは、えき長さんや、き車がこしようしたとき、なおしてくる人がいます。き車がこわれても、なおしてくる人がいるから、あんしんですね。わたしが、南しまばらえきまでけん学に行ったら、なおしてくる人は、き車がホームにはいつてくると、すぐにけんさをしていました。くぎや、ねじがとれかか

ったり、こしようしてないか、しらべていました。わたしは、「たいへんなしことだなあ」と思いました。

えきではたらく人は、おおかたです。もちろん、き車がこしようしたとき、なおしてくれる人がおおいでしょうね。こんなにいっぱいの人がはたらいているなんて、しりませんでした。でも、えき長さんや、きつぶをうったり、きつぶをきつたりする人なら、しっていました。

はじめてえきに来たときは、わたしは、「き車が、こしようしたとき、なおしてくれる」とまではこいでいくのかなーと思っていました。



史跡めぐりに参加して

新山西川口はるみ

十一月十六日、四年生の父兄と子供達が参加して、親睦と体力づくりを目的とした市内史跡めぐりハイキングが行なわれま

した。三小に集合、一組を先頭に観音公園へ。ここでクラスごとに記念撮影をし、山道を次の目的地薬園跡へ。途中どんぐりを拾ったり落ち葉を集めたりしながら、久しぶりに子供達と歩きました。たぐさんの薬草が効用別にきれいに植えてありました。本光寺でお寺の方の説明を聞き、武家屋敷を通り、子供達は楽しそうに歌を歌いながら歩きます。お昼は島原城でした。

鯉の泳ぐ街を通り、ねはん像を見学。三十番神ではお坊さんが子供達にわかるように、一日から三十日まで毎日、お当番の



鯉の泳ぐ街

(本光寺にて)

神、いらつしやろこと、壁面にある何百巻もの写経のこと等をやさしく説明して下さいました。質問にも答えて下さり楽しく勉強ができました。

最後に一つぶの米、一滴の水も無駄にせず、やさしく思いやりのある人になって下さいというお話でした。耳洗公園を最後に解散しました。島原に住んでいながら、知らない所がたくさんあり、改めて島原の良さがわかったいい一日でした。

せいっぱい歌った…♪

5年3組 田中巳香子

十一月十五日は、第七回目の市民音楽祭でした。私は音楽祭の前から、かぜをひいていました。練習の時は、のどがかれてしまい、高い声があまりでませんでした。音楽祭の当日、そんなに、のどが痛くありませんでした。私は思わず心の中で「やった！思いっきり歌えるぞ」と思いました。何ヶ月も練習してきた成果がだせるのです。

いよいよ私達三小の五年生の出番です。ステージにあがる前に、白山先生が背中を軽くたたいて、「がんばってね」と言ってくれました。その一言が私に勇気を与えてくれました。ステージに出るとたくさんのお客さんが、目につきました。きんちようしてきました。だんだん恥ずかしくなってきました。私はあつと思えました。ここで恥ずかしくなつてはいけません。大きな口をあけて、大きな声をだして歌わなければ、と思えました。私は恥ずかしさも忘れて思いつき歌いました。

おわった時、ほっとしました。三小の五年生全員でせいっぱい歌ったんだ。これは、私の思い出のひとつになるでしょう。

自立できる子供に

育友会長 小島健一



供は未成熟者である。だから教育しなければならぬ。子供は弱いものである。だから保護しなければならぬ。この矛盾について考えたい。等々で、これに対し質疑応答および討議が行なわれました。

六日は開会式のセレモニーがあり、あいさつ、祝辞、表彰のあと全体協議と続きましたが、九州各県から千人余りの参加で、会議も形式的なものとして終了。記念講演は「頭の体操」で有名な千葉大教授の多湖輝先生、テーマは「これからの家庭教育はどうか」これからの現代の世相についてユーモアを混えながら痛烈に批判、欧米との比較などのあと、国際化・高齢化の時代で自由時間も増え、この充実も考えなければならぬ。また、知識だけではいけない。日本は「自分で学ぶこと」が遅れている。生涯学習の時代になるから、子供には「勉強の仕方、楽しさ」と自分で判断する力「を身につけさせ、自立できる子供」を育てることが必要と結ばれたようである。

最後に、大会宣言決議案の承認、次期開催委員代表の挨拶等があり解散しました。

県PTA大会に出席して

育友会副会長 松尾正敏

十一月二十二・二十三日の二日間、平戸市で、第二十六回長崎県PTA研究大会が開催されました。

「研修を深め、相互信頼に満ちたPTA活動の推進」のスローガンのもとに、県内各地より約二千名の人々が相集い、熱心な研究討議と相互の交流を深めました。

我が三小からは、小島会長、佐々川副会長、友永教養部長と私の四人が参加致しました。

朝八時に島原を出発、平戸市まで四時間半、到着すると食事もそこそこ受付をすませ、早各研究テーマ毎に七会場での分科会に出席。各会場において持ち寄った研修の成果の発表と問題提起についての質疑応答等日頃のない真剣な勉強会でありました。

一日が終わって、ほっとして宿に入り、夜は市内見物でもと思っておりましたが、大広間で

の合同の夕食中、あちこちでの話題はやはり昼間の分科会のことと。

こんな場所までPTAの話でもなかうと思いつら、つい議論の中に入りこみ、時間の観念を無くしてしまっておりました。

翌日は、九時三十分から、市文化センターにて、式典に続いて全体会が行われました。

前日の分科会の報告を受けての全体での討議の後、昼食をはさんで午後からは、「子供の心」と題して鹿児島島の黎明館長の新納教義氏による記念講演……

二日間どっぶりの研修づくでありませんが、同宿した小島会長の寝言、友永さんのイビキに私の歯キシリでの夜中の三重奏、行き帰りの車内における佐々川・友永両氏の教育大論争。

各人の面白いキャラクターの再発見も又、思いがけない楽しい収穫ではありました。

昨年の同大会Bパートにおいて優勝を成し遂げ、本年はAパート進出を果し、我々白山チームは、どの位戦うことができるのか？

組合せ抽選も決まり、毎回の練習にも熱が入り、何度か対戦相手の坂上の皆さんにも練習試合をさせていただきましたが一勝できるだろうかという思いもありました。

さて、試合当日我々は、新山、坂上チームと激しい戦いをし、応援の方も得意の「白山」の声援で、三セットにもつれこむ

試合をもものにして会場を二中より三小（決勝戦）に移すことができ、大喜びでした。

決勝は、昨年優勝の崩山チームとの対決となりこれも三セットにもつれ込む息も抜けない素晴らしい

激しい試合となりましたが、ここでも白山応援が功を奏したのか、見事優勝の栄冠に輝くことができました。大変な喜びようでした。これもチームワークの良さではないかと思

います。又、応援大賞という賞があれば、これもまた我々白山町がいただけたものかとも思います。最後に大会運営にご尽力いただいた役員の皆様おつかれ様でした。来年も又、ガンバリましょう。

我が手に大賞も



育友会町内対抗

バレーボール 成績結果

- Aパート
 - 優勝 白山
 - 二位 崩山A
 - 三位 坂上・三小
- Bパート
 - 優勝 新山西
 - 二位 雲南
 - 三位 緑町・西八幡町
- Cパート
 - 優勝 白土桃山二丁目
 - 二位 浦田元船津坂下八幡
 - 三位 津町有馬船津・崩山B

編集後記

学校の廊下を歩いていると、子どもたちが「○○先生の来た」と言っています。そこで、「先生には、いいねいなことばで言わなきゃ、先生の来らした。」って」と言いますと、「来らしたあ？」と驚いて笑います。このころの子どもたちは、「来らした」「言わした」「おらす」というようなことばをあまり使わないようです。

あるお母さん、「うちの○○ちゃんはこの言わすことばですよ」と自分の子どものことを話されます。子どもは「お母さんの……て言うたんば」と言います。武田鉄也さんじゃないけれど、「自分の子どもに遠慮してどうしますか。」の気分です。

今年最後の「がんば」いかがでしたか。あわただしい時期に、原稿を寄せて下さり、ありがとうございました。また、会員の皆様にも、レンドン投稿して下さることをお願いいたします。

H・M